

## 2017冬のボーナス予想調査

## 「増えそう」が増加するも消費控えめ、熊本地震の影響残る

熊本地震から1年8ヵ月が経過した。県内経済は、住宅の再建、県内各地で災害復旧工事が進んでおり、緩やかな回復が続いている。

このような状況の中、当研究所では、熊本県居住者を対象として、第26回目となる今冬のボーナスについてアンケート調査を実施した。

## 【調査結果のポイント】

1. 今年の冬のボーナス予想 ～支給予想に改善傾向みられる～
  - ・2年ぶりに「増えそう」が「減りそう」を上回り、ボーナスの増減予想に改善傾向がみられた。
2. ボーナスの使いみち ～使いみちは熊本地震以前には戻っていない～
  - ・ボーナスの使いみちは、「貯蓄・資産運用」が59.5%と最も高く、「ローン・借金の返済」(30.4%)、「買い物」(29.1%)、「生活費補填」(27.2%)となった。
  - ・ボーナスの使いみちは、熊本地震の影響を受けた昨年と比べて大きな変化はみられず、今回の使いみちは、地震以前には戻っていないようである。
3. 「貯蓄・資産運用」の予定 ～明確な貯蓄意向を持つ人が増加～
  - ・「貯蓄・資産運用」への総額をみると、「未定」が減少し、「50万円超」を除くすべての金額で昨年を上回り、金額を決めて貯蓄や資産運用を検討している人が増加した。
  - ・「貯蓄・資産運用」で選ぶ商品は、「預貯金」が91.7%と最も高く、安全性を重視する傾向がみられた。
4. 「買い物」の予定 ～買い物への高額支出を予定する人が減少～
  - ・買い物への支出総額は、「10万円超20万円以下」が昨年を5.2p下回り、買い物への高額支出を予定する人の減少が見込まれる。

## 【調査概要】

1. 調査対象：熊本県内在住20～50代のボーナスを支給される予定の人（世帯）
2. 調査期間：2017年11月1日～8日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：㈱マクロミル）
4. 有効回答：405人
5. 回答者の属性（人・%）

	年代					勤務先*			
	全体	20代	30代	40代	50代	民間事業所・団体 (本社熊本県内)	民間事業所・団体 (本社熊本県外)	公務員・独立行政法人	その他
全体	405 100.0	93 23.0	104 25.7	104 25.7	104 25.7	229 56.5	94 23.2	74 18.3	8 2.0
男性	197 100.0	41 20.8	52 26.4	52 26.4	52 26.4	106 53.8	48 24.4	41 20.8	2 1.0
女性	208 100.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	123 59.1	46 22.1	33 15.9	6 2.9

勤務先\*：未婚者には自身の勤務先を、既婚者には主に家計を担っている人の勤務先を尋ねた

1. 今年の冬のボーナス予想

- ・「増えそう」が昨年を2.6p増加の17.3%、「減りそう」は6.1p減少の13.9%となり、増減予想に改善傾向がみられた。
- ・支給月数をみると、「1ヵ月分以下」「1ヵ月超～1.5ヵ月分」で4割を占めた。

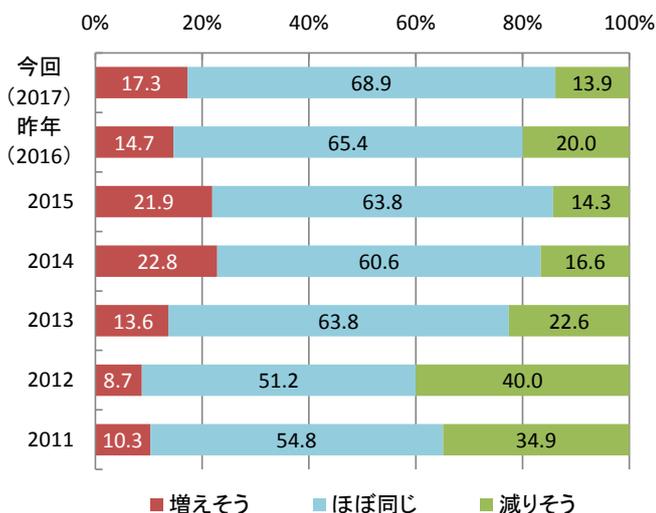
今年の冬のボーナス増減予想は、「ほぼ同じ」が68.9%と最も高く、次いで「増えそう」が昨年を2.6p増加の17.3%、「減りそう」は6.1p減少の13.9%だった。今回は2年ぶりに「増えそう」が「減りそう」を上回り、昨年よりも増減予想に改善傾向がみられた(図表1)。

次に、支給月数の予想をみると、「1ヵ月分以下」は、昨年と比べて4.1p増加の19.0%となり、1.5ヵ月分以下は全体の4割を占めている。また、「1.5ヵ月分超～2ヵ月分以下」で3.3p減少の19.3%、「2ヵ月分超～2.5ヵ月分以下」で5.2p増加の17.5%となった。

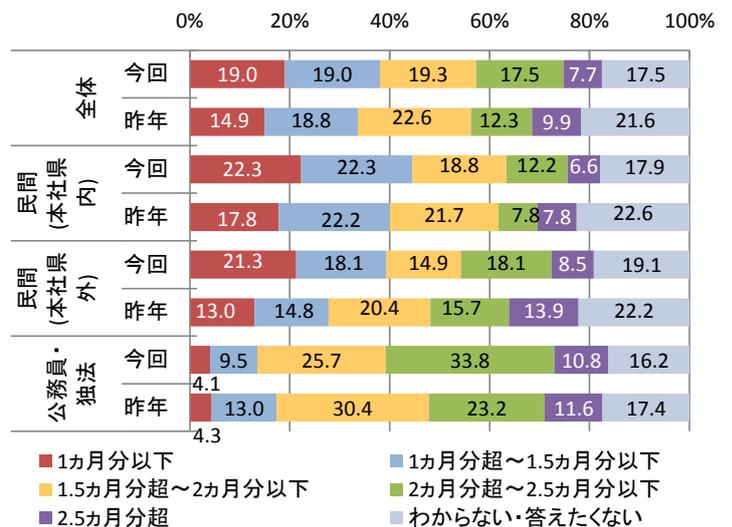
勤務先別にみると、本社が熊本県内の企業は、「1ヵ月分以下」は昨年比で4.5p増加の22.3%となり、勤務先別で最も多い。また、本社が熊本県外の企業をみると、「1ヵ月分以下」「1ヵ月分超～1.5ヵ月分以下」の合計は39.4%となり、昨年より11.6p増加している。民間企業においては、1.5ヵ月分以下と予想する人がそれぞれ4割を占めている。

また、公務員は、人事院および熊本県・市人事委員会によるボーナス支給月数引き上げの勧告により、「2ヵ月分超～2.5ヵ月分以下」で10.6p増加している(図表2)。

図表1 ボーナスの増減予想推移



図表2 支給月数予想(勤務先別)



※今回(2017) 昨年(2016)

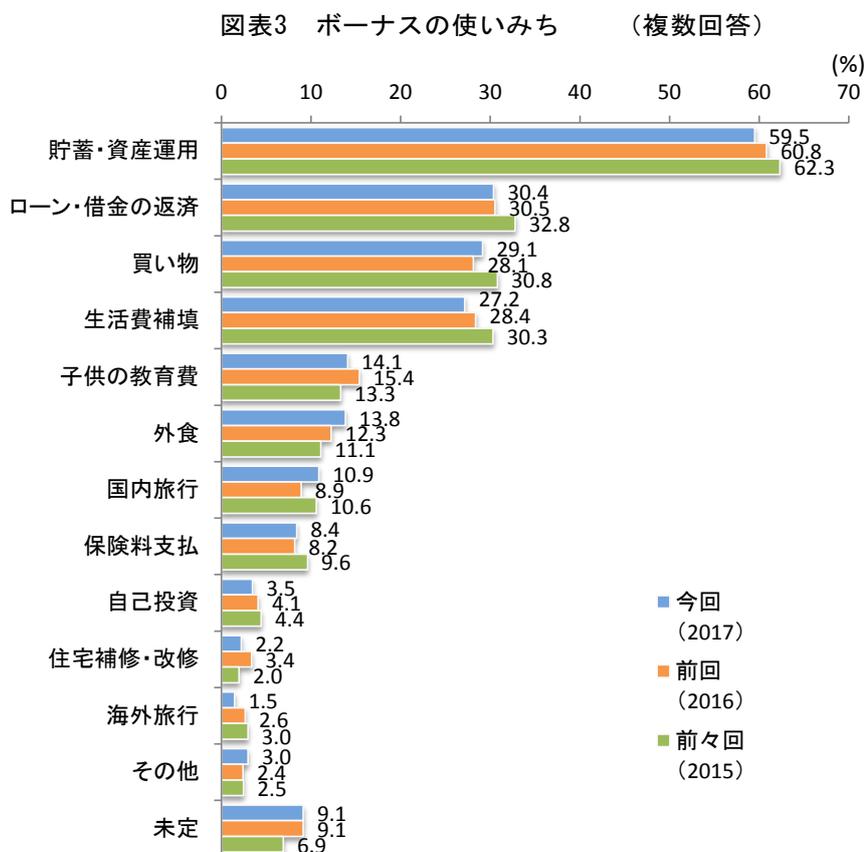
## 2. ボーナスの使いみち

- ・ボーナスの使いみちは、「貯蓄・資産運用」が59.5%で最も高い。
- ・最も金額が大きい使いみちは、「貯蓄・資産運用」で昨年より3.3p増加した。

ボーナスの使いみちをみると（複数回答）、「貯蓄・資産運用」が59.5%と最も高く、「ローン・借金の返済」（30.4%）、「買い物」（29.1%）、「生活費補填」（27.2%）と続いている。

項目別にみると、熊本地震の影響を受けたと推察される昨年とほぼ同水準の項目が多くみられ、今回の使いみちには、熊本地震の影響が残っていると思われる。このような中で、「未定」が9.1%となったことが目を引いた。支給額を確認したのち、使いみちを検討する人もいるようである。

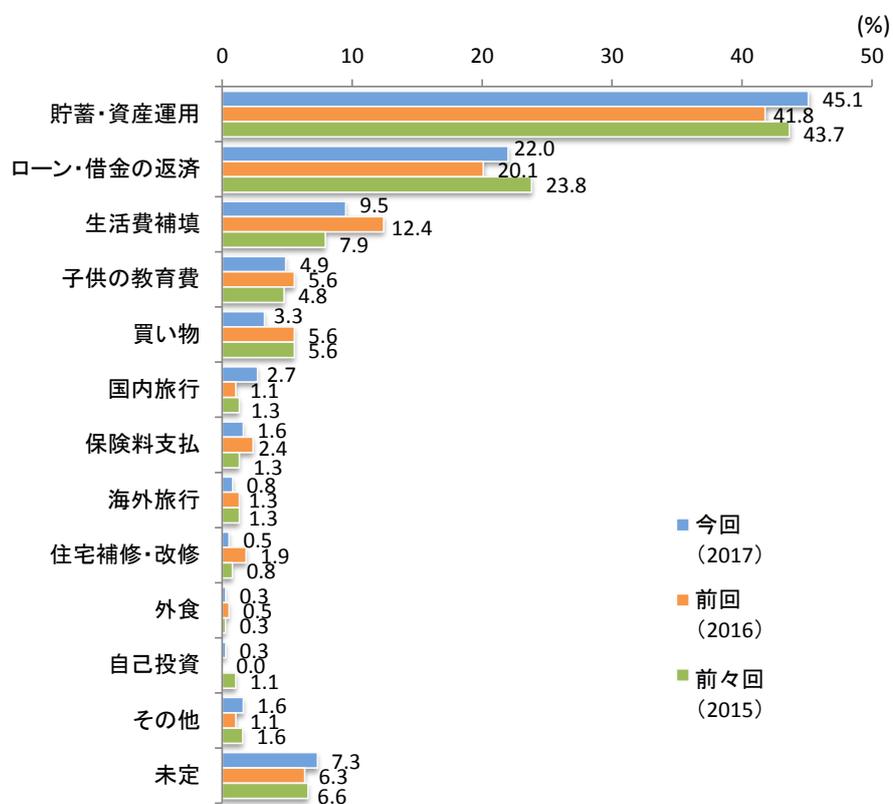
さらに、熊本地震が発生する前年の2015年と比較を行うと、15年より減少している項目が多くみられ、支出の引き締め傾向が続いていることがうかがえる。熊本地震で変化した使いみちが元に戻るには、しばらく時間がかかるようだ。一方で、「外食」「国内旅行」は15年を上回っており、「娯楽」など一部の支出は熊本地震以前に戻りつつあると思われる（図表3）。



次に、ボーナスの使いみちのうち「最も金額が大きいもの」を尋ねると、「貯蓄・資産運用」が45.1%、「ローン・借金の返済」が22.0%となり、この2項目で約7割を占めている。ボーナスの使いみちは、「貯蓄」と「ローン返済」という傾向は変わらないようである。

最も金額が大きいボーナスの使いみちについても、熊本地震前年の2015年と比較を行うと、「貯蓄・資産運用」は15年を上回った。熊本地震の経験から、不測の事態に備えて、貯蓄や資産運用の増額を検討する人が増加したと思われる。また、「生活費補填」をみると、昨年は熊本地震の影響を受けた人もいと推察され、15年と比べて4.5p上回ったものの、今回は昨年を2.9p下回っている（図表4）。

図表4 最も金額が大きいボーナスの使いみち

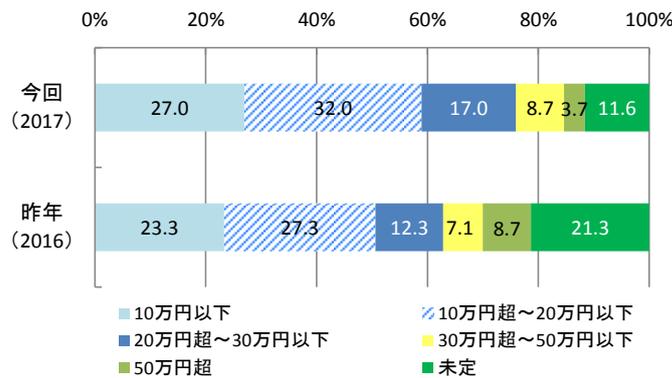


### 3. 「貯蓄・資産運用」、「買い物」の予定

- ・「貯蓄・資産運用」への総額は、「10万円超～20万円以下」が32.0%で最も高い。
- ・「貯蓄・資産運用」で選ぶ商品は、「預貯金」が91.7%と最も高い。
- ・ボーナスで買う予定のものは、「洋服」が最も高く、「靴・バック」、「家具・インテリア用品」と続いた。
- ・買い物への支出総額は、「5万円以下」が40.7%で最も高い。

ボーナスの使いみちとして「貯蓄・資産運用」を選んだ241人に対して、「貯蓄・資産運用」への総額を尋ねたところ、「10万円超～20万円以下」が32.0%で最も高くなった。昨年との比較では、「10万円超～20万円以下」「20万円超～30万円以下」で4.7p上回るなど、「50万円超」を除くすべての金額で昨年を上回った。また「未定」は昨年を9.7p下回る11.6%となり、金額を決めて貯蓄や資産運用を検討する人が増加している。ボーナスの一部は貯蓄する、という明確な貯蓄意向を持つ人が増加したと思われる（図表5）。

図表5 貯蓄・資産運用への総額  
(今回 n=241、昨年 n=253)

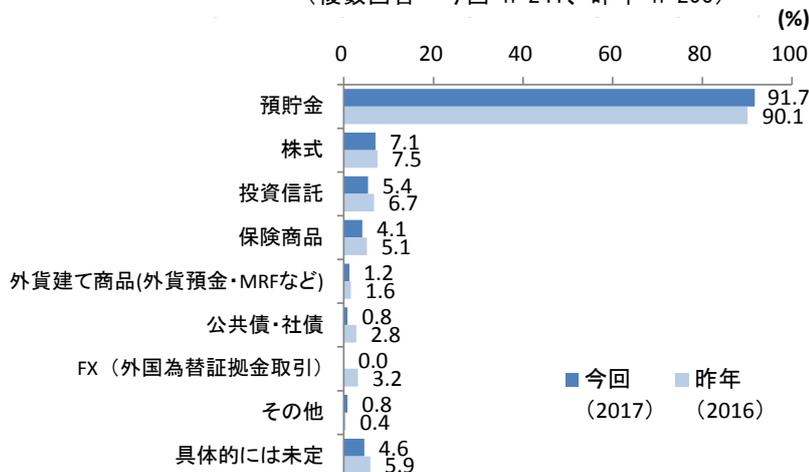


さらに、具体的に選ぶ商品を探ねたところ（複数回答）、「預貯金」が91.7%と最も高くなった。「預貯金」は昨年も9割を超えており、将来の支出に備えて貯めておきたいという意識が強いようである。

また、「株式」(7.1%)、「投資信託」(5.4%)など、預貯金以外の商品を選択した人は少ない。日経平均株価の終値がバブル崩壊後の最高値を上回るなど、株高局面は続いている。しかしながら、リスク商品である「株式」や「投資信託」などは敬遠されており、資産を運用し「増やす」という意識は低く、安全性を重視する傾向が強いようである（図表6）。

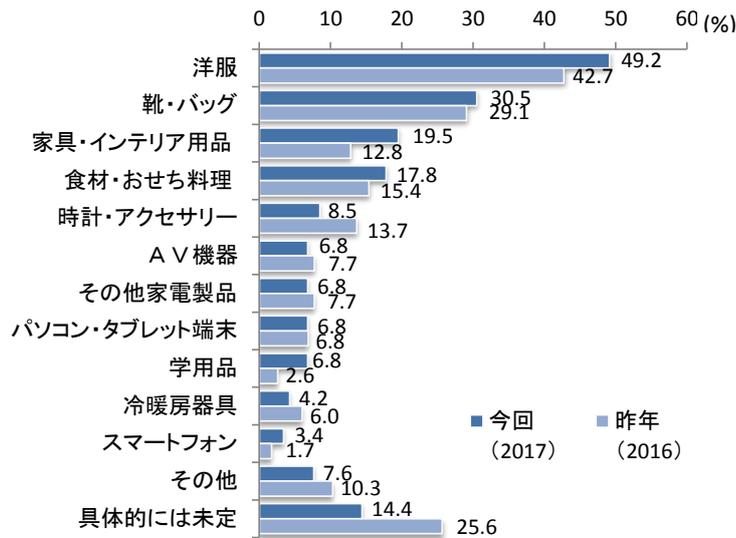
図表6 貯蓄・資産運用で選ぶ商品

(複数回答 今回 n=241、昨年 n=253)



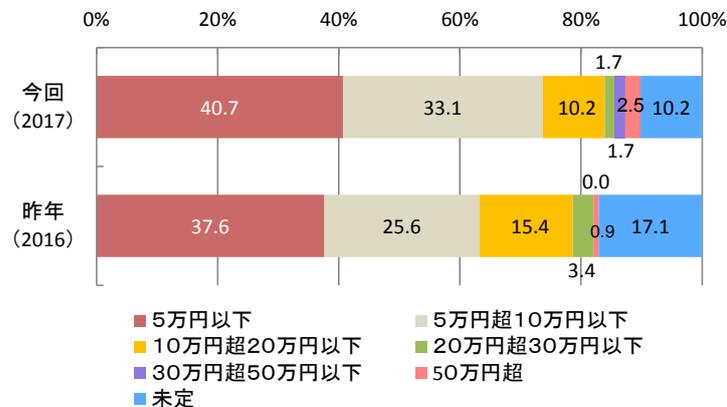
ボーナスの使いみちに「買い物」を選んだ 118 人に対して何をかうかを尋ねると（複数回答）、「洋服」が 49.2%と最も高く、次いで、「靴・バッグ」（30.5%）、「家具・インテリア用品」（19.5%）と続いた。「家具・インテリア用品」は昨年を 6.7p 上回っている。熊本地震で被災し、家具やインテリアの買い替えを行う人もいられる（図表7）。

図表7 買う予定のもの  
（複数回答 今回 n=118、昨年 n=117）



さらに、ボーナスから買い物への支出総額を尋ねると、「5万円超10万円以下」は昨年を7.5P 上回る33.1%となり、10万円以下の合計は7割を占めている。一方で、「10万円超20万円以下」は昨年を5.2p 下回っており、買い物に充てる金額について、高額支出を予定する人の減少が見込まれる（図表8）。

図表8 買い物への支出総額  
（今回 n=118、昨年 n=117）



### おわりに

今年の冬のボーナス予想調査においては、「増えそう」が「減りそう」を上回り、支給状況の改善を予想する人が多かった。

また、今回のボーナスの使いみちをみると、昨年とほぼ同水準の項目が多く、熊本地震で変化した使いみちは、地震以前には戻っていないようである。さらに、買い物への支出を抑え、貯蓄や資産運用に充てる傾向が見受けられ、消費は控えめで堅実な使いみちを検討している人が多いと思われる。

以 上